

第一回松山市文化施設の在り方検討会(概要)

■開催日時:令和7年9月9日(火) 15:00~16:50

■開催場所:KH三番町プレイス 4階研修室

■出席者:土居英雄委員、本田元広委員、郡司島宏美委員、池田慈委員、丹下正英委員、羽鳥剛史委員、淡野寧彦委員、前田眞委員、森隆一郎委員
家串正治オブザーバー、矢野博朗オブザーバー
(欠席)中矢齊オブザーバー

■傍聴者:1名

■議題等:○出席者と事務局の紹介

○検討会の目的・役割について

○報告事項

- ・「車両基地跡地広域交流拠点施設整備検討会」と
「みんなで考える新たな施設ワークショップ」での意見について
- ・松山市民会館と市内文化施設の利用状況について
- ・文化施設の在り方に係る調査の実施予定について

○松山市民会館の閉館時期に関する意見交換

■会議概要

1 開会

2 松山市 坂の上の雲まちづくり部長 あいさつ

3 出席者紹介

4 事務局紹介

5 検討会の目的・役割について

○資料に沿って事務局から検討会の目的と役割を説明。

6 報告事項

- (1)「車両基地跡地広域交流拠点施設整備検討会」と
「みんなで考える新たな施設ワークショップ」での意見について
- (2)松山市民会館と市内文化施設の利用状況について
- (3)文化施設の在り方に係る調査の実施予定について

○資料に基づいて事務局から(1)~(3)について報告。委員から次の意見があった。

- ・「みんなで考える新たな施設ワークショップ」のニュースレターは、実際に参加した印象と差異を感じるところがあるので、記録の残し方や伝え方を工夫してほしい。
- ・市民会館の利用実績のうち、主催者が市内の文化団体であるもの、また、非営利利用のうち、市が主催のものがどれだけあるかなども調べてほしい。

○堀之内での建て替えの可能性について次の質疑と対応があった。

委 員 市民・県民が意見を強く出して文化庁に交渉するなどして、堀之内での建て替えの可能性を探ることはできないか。

事務局 現在の場所は、史跡の景観や価値を著しく減ずると認められる場合、建て替えはできないため、現実的には難しいと認識している。

委 員 基本的に、市民会館もNHKも、県立図書館も、あの場所で建て替えはできないと聞いている。市民、県民の動きは良いことではあるが、厳しいと思う。

7 松山市民会館の閉館時期に関する意見交換

○資料に基づいて、令和6年度に実施した現市民会館の老朽化調査の結果を説明した。

(説明概要)

・躯体は令和18年度まで使用できるが、空調や舞台装置設備等は老朽化が進んでいる。

・使用期間を検討する目安で次の三案が示された。

①R8 年度まで使用…5,800 万円で通常の設備メンテナンスを行う。全館休館はなし。

②R12 年度まで使用…約 7.4 億円で通常の設備メンテナンスと空調機器の追加設置を行う。中ホールのみ R8 年度末で休館。

③R18 年度まで使用…約 29.6 億円で大規模改修する。約 1 年半、全館休館が必要。

・故障リスクは①が比較的低く、②は耐用年数を超えた空調設備等を入れ替えないため最も故障リスクが高い。③は壁の中の配管など構造上入れ替えができない機器等も残るため、故障リスクを払しょくできない。

・③は文化庁から許可された場合のみ工事が可能。②は改修内容によって許可が必要。

・現在の場所での建て替えは、史跡の保存や歴史的価値を向上しない行為は認められないため困難。

○説明内容について、次の質疑と対応がされた。

委 員 文化庁との協議が必要な具体的な内容とは。

事務局 機器を施設の外側に設置するなど外観の変更や掘削。

委 員 故障リスクは、どのようなことが想定されるか。

事務局 一番は、空調の停止で、ホールの使用中止と補償対応。

○以降は進行役を委員に依頼し、意見交換を行った。

松山の文化を途絶えさせないのが一番の目的であると確認し、主に次の5つのポイントで意見が交わされた。

1. 代替施設の整備方針を今年度から考えていくことについて

(概要)代替施設の整備が不透明な中、3つの案から閉館だけを決めるのは市民が不安に思う。代替施設の整備や建設候補地など、大きな方針は今年度から考える必要がある。

(意見交換内容)

委 員 音楽関係者176名に独自で「閉館時期3案のどれがいいか」のアンケートを取ったところ、①が 16.4%、②が 27.7%、③が 30.8%、④選べないが 24.9% であった。新施設がいつ、どこに建つか、存在自体が必要か、現状不透明で、閉館時期の判断は難しい。建設場所や費用、行政対応の課題を明確にし、社会包摂型のフルスペックな新文化施設を早急に検討してほしいという意見が多かった。

委 員 市民ホールが必要であると意見が一致しているのが非常に重要。文化活動は一度途絶えてしまうと復活させるのは容易でなく、活動の成果を発表する場は当然必要である。

委 員 今年度中に、代替施設ができるのか、建設候補地などの目処はあるか。

事務局 検討会で協議が進む中で、必要な機能や規模が整理されてくる。それに応じて

候補地も見えてくるので、時期がくれば公表する。

2. 示された3案以外の閉館時期の柔軟な検討について

(概要)3つの案以外の柔軟性をもった検討をしてほしい。特に①案のR8年度末閉館は、文化団体の活動予定への影響が懸念される。

(意見交換内容)

委 員 ①と②の間の新案など、この三つ以外に検討の余地はないか。

事務局 3案はあくまで委託調査の結果なので、それ以外の時期も意見を頂きながら、検討可能。ただし、躯体がもつ18年が上限になる。

委 員 R8年度末となると文化活動をする人からすると予定が狂うのでは。①を少し延ばすなどの案も必要であれば検討してほしい。

3. 空白期間の負担軽減について

(概要)休館中あるいは新施設ができるまでの空白期間の負担を軽減するため、ソフト面のサポートと、ハード面で既存施設の活用策の見通しを考えていく必要がある。

(意見交換内容)

委 員 最終的に期間は違っても空白期間は生じるので、今から対策に動き出すべし。

委 員 空白期間を極力短くし、市民の文化芸術活動へのマイナスの影響を限りなく減らす必要がある。代替施設の紹介や斡旋、振り替えの使用料の差額補助など、経済的支援で、市民の文化活動を保障、あるいは支援が考えられる。

委 員 墨田区では、財団が様々な文化資源(文化会館、寺社仏閣、民間の場所等)を調べ、そこを使うための補助金の支出や技術支援を行うなど、文化資源の一括把握と利用促進のための経済的サポートという事例がある。

委 員 県内の他市町に、今後こうした状況が一定期間続くのを理解してもらうなど、全県体制で、使えるハード面を確保できるよう進めてほしい。ソフト面では経済的な支援あるいは代替場所を取り計らうなど、文化団体に負担がかからないようにするべき。

委 員 県と交渉し、県民文化会館の利用を促すなどあれば利用者も安心する。振替にかかった費用を補助し、利用を促していく。

委 員 中ホールは代替になりそうな規模の施設があるが、大ホールは難しい。大・中・小ホールの機能によって、どの時点でどういう代替施設が必要か、整理し、手立てが必要。

事務局 今後、周辺や民間の施設の活用や、市内の施設の役割分担も整理していく。空白期間は、コミュニティセンターの企画展示ホールやコムズの大会議室、総合福祉センター、番町公民館の大会議室などの設備を充実させ、施設の利用を促すなど、検討会の意見を伺いながら様々な方策を検討し、継続して活動の場が提供できるようにしていきたい。

委 員 空白期間で失われそうなもので、子どもたちの連合音楽会がある。ある程度の客席で、毎年決まった時期に行われる。文化的に不遇な世代が生まれるのは一番避けたい。

4. 利用者への丁寧なヒアリングについて

(概要) 使用率等のデータだけでなく、市民会館を実際に利用している人に、何に困るか、どうすれば納得できるか、丁寧にヒアリングを進めてほしい。

(意見交換内容)

委 員 既存のどの施設が代替になり得るかは、実際の利用者の声を聞いてほしい。
音響面で、今の中ホールと同等の機能を持っているのは、市民会館の大ホールと愛媛県生涯学習センターの小劇場で、他は難しい。また、能舞台が建物の中にあり、気候の影響を受けないのは市民会館の小ホールのみで代替は難しい。

委 員 大ホールで言うと、県民文化会館メインホールは響きが違い、利用もしづらい。
他市の同等規模の施設も代替に挙がっているが、大ホールの代替はなく、ある程度の客席がある施設が松山市にあって四国や愛媛から集まってくれた方がいい。

5. まちづくりの観点で現市民会館跡地の文化的な利用を考えいくことについて

(概要) まちづくりの観点で、現市民会館が閉館した後も堀之内が文化的に活用されるよう、合わせて考えていく必要がある。

(意見交換内容)

委 員 堀之内に文化的な香りが漂うのは、年月を経て蓄積してきた歴史のようなもので、市民会館閉館後に、土地の雰囲気やまちの集約が無くなるのは残念。形は変えても堀之内に文化的な気持ちが残るようなものを作るなど、閉館後の堀之内をどうするか、合わせて検討が必要。

委 員 文化のまちとして、松山がより栄えていくようなまちづくりプランを考えいく必要がある。

○その他、次のような意見があった。

委 員 使用期間の三案のうち③について、30億円かけて建て替えができない建物を修理する必要性があるか疑問。

委 員 一般的な大きめの文化施設なら、10年で30億円は高いわけではない。
ただ、先が見えないものに投資する心労はある。

委 員 30億円となると市の財政負担と文化とのバランスも考えていく必要がある。

委 員 市民会館は堀之内にあることに意味があると言う人もいるが、全員ではない。席数も大ホールは1500から2000席、中ホールは400から700席、小ホールは100から500席、音響と演奏環境はクラシック音楽に適した音響が良い、ホール単体ではなく、リハーサル室や練習室、控え室も必要という声や、カフェや博物館、図書館など多機能な施設を望む声など、意見は様々。家族で行きやすいアクセスが良い土地や市街地など、利便性は必要。

8 その他

○次回の検討会開催の案内。

9 閉会